日本児童英語教育学会

(The Japan Association for the Study of Teaching English to Children)

中国四国支部 Newsletter

No.19（2009 年春号）

第 26 回 中国四国支部研究大会 レポート

2008 年 11 月 9 日（日），第 26 回中国四国支部研究大会が「様々な立場から見るこれからの小学校英語」というテーマのもとに，ひろしま国際センターで開催され，研究発表，実践報告，講演、およびパネルディスカッションが行われた。以下，当日朝から夕刻まで開催された研究大会の模様を，支部役員による「参加レポート」の形で掲載する。

◇　◇　◇

研究発表

「絵本読み聞かせ活動における児童の音韻表象と形態表象アクセスに関する研究：眼球運動測定を用いて」

三宅美鈴（広島国際大学）

三宅先生によるご発表は、英語を母語としない、また意味情報もメンタルレキシコン内にほとんど存在しない日本語母語話者児童が、音韻刺激を与えられたとき、どのように音韻表象と形態表象とを対応させていくのか。絵本の読み聞かせ活動において日本人児童の音韻表象と形態表象のアクセスに関して、眼球運動測定によるデータを基に行われた。絵本の読み聞かせを英会話授業で子どもたちにする私にとって、大変興味深い研究発表内容だった。

研究は、絵本の読み聞かせを中心に事前事後テストを行い反応時間、正答率、視線軌跡、マウスの動きなどを基に、①事前事後テストともに正解であったパターンから正当語の確信度と語彙分析②事前テスト誤答・事後テスト正当パターンの語彙分析③事前事後テストともに不正解であったパターンの語彙分析で行われた。読み聞かせ絵本は、児童の態度、知能、想像力、社会性などの促進を計るもの。読みへの動機付けを促進するものや、言語への諸側面の習得効果・言語習得のストラテジー習得効果のあるものを使用された。眼球測定の実験装置にはアイマークレコーダを使用し、角膜反射法を用いて眼球運動を測定した。アイマークレコーダとは､前方の PC 画面を撮影するように被験者に取り付けたビデオカメラからの画像上に被験者の注視点を表示する装置である。

実験は、小学校５・６年生男子女子計２０名で行われた。実験用テストには、音と文字表記との関連付け認知確認用の語彙２０語選択され、それらは内容の語の頻度、語の長さ、英語の規則性、具体性、カタカナ語などに着目された。実験手順は、①被験者に実験の説明。②キャリブレーション。③事前テスト。④読み聞かせ。⑤事後テストの順序で行われた。結果、読み聞かせは一度であるが、読み聞かせによって、正当への反応時間を比較すると認知語（birthday, having, like, chips など）に対して確信度が増し、また英語活動で使用頻度の高い語・音韻表象と形態表象との間にローマ字変換規則と GPC ルールが合致した語・新密度の高い語・主要部文字列単位に一貫性がある語は音韻表象と形態表象へのアクセスに成功する可能性が高いことが分かった。また読み聞かせにより認知できるようになる子音の存在を示唆された。一度の読み聞かせでは、必ずしも単語の出現頻度が音韻表象と形態表象とのアクセスには大きく影響を及ぼすものではないが、日頃の英語活動での使用語彙との相互作用により、読み聞かせによる効果は上がる可能性があると述べら

れた。
　三宅先生の研究は大変緻密で、絵本読み聞かせに対する意識を変える研究内容だった。絵本の選定をまた一から見直してみようと思う研究だった。

西尾亜紀子（Bear's English House）

◇　◇　◇

実践報告
小学校英語活動における他教科との連携
―5 年生における実践から
永田澄枝（倉吉市特別非常勤講師）

　英語を他教科と効果的に連携できるのは小学校英語のよさであるが、様々な制約からなかなか実践できないのが現状でもある。その中で、昨年度から倉吉市の小学校で英語活動特別非常勤講師として活動しておられる永田先生は、他教科と連携させた貴重な実践を報告して下さった。
　まず永田先生は倉吉市の小学校の英語活動について、全員参加の英語活動が基本であり、①校長も保護者も授業に参加できる；②英単語の知識量ではなく表現力の力量で評価し、英語教室に通っている児童の一人がちにしない；③全員が発話出来るよう促し、児童を逃がさない：④英語の量よりも、説明には日本語を交える：⑤学校全体で取り組み、特に学級担任の先生の役割を重視する、の 5 点を強調された。
　英語活動と他教科の連携として紹介して下さった例は、とても上手く組み合わされ、かつ子供たちが楽しんで取り組める工夫が素晴らしかった。例えば算数と組み合わせた「数で遊ぼう」という活動は、児童に一枚ずつ数のカードを配り、合わせて 10 になる相手をみつける。続いて、引き算や掛け算、割り算を加えて、3 人以上で 10 になる相手を探す。また漢字を組み合わせての授業では、其々の数に漢字を対応させ、例えば６に「土」１７に「星」が対応していれば、6+17 という英語の問いかけで「土星」という答えをみつける。さらに国語と組み合わせた活動では、日（sun）、月(moon)、火(fire)――石(stone)、山 (mountain)などを学んでから、”There is a stone under the mountain. What Kanji is this?” “It’s 岩（rock）.”という要領で漢字作りに挑戦し、ペアで出来るだけたくさんの漢字を作り、後で発表するという活動であった。
　社会と組み合わせた活動では、様々な国の名前と挨拶を学んだ後、各自、国旗シールを一枚選び、友達と其々の国の言葉で挨拶をしながらシールを交換していき、また国旗と天気を組み合わせて、お互いの天気を聞きながらワークシートに国ごとの天気を書き入れ、最後にキャスターとして発表するという活動も紹介された。
　他教科との連携は、小学校の先生方の素晴らしいアイデアが生かされる場でもあるが、英語とのより効果的な組み合わせ方を考えたり、教材作成を含め十分な準備等を行う為にも、永田先生のような存在が非常に重要であると感じた。今後も、其々の地域で体制を整えながら、英語活動と、連携させた教科にも相乗効果のある楽しい活動が創られ、共有していくことが出来たらと願っている。

大谷みどり(島根大学特任教授)

◇　◇　◇

講演
「小学校英語活動に必要な教員研修を考える　～現在の，そして将来の先生のために」
阿部始子
（関西大学・福岡女学院大学非常勤講師）

　阿部始子先生のお話を最初に伺ったのは，2006年のJASTEC全国大会（大阪商業大学）であった。先生は，古田秀人氏（福岡市教育委員会）と共同で「小学校英語活動指導力養成プログラム」と題する福岡市の小学校英語活動のための教員養成に関わる実践報告をされた。私は阿部先生の実践に大変感銘を受けて，いつかその内容を本支部の研究大会でお話しいただきたいと思っていたが，2008年５月に京都市で行われた全国私立大学教職課程研究連絡協議会で阿部先生ご自身が発表された会場で再会したときに，ここぞとばかりご無理をお願いした。その場でご快諾くださった先生には，改めて感謝申し上げたい。
　阿部先生は，現在関西にご在住であるが，2008 年３月まで福岡女学院大学に専任教員

として在籍されておられた。福岡女学院大学は，2005～2006 年度，福岡市教育委員会との連携による「福岡市英会話活動指導の手引き」に基づいた「小学校英語活動指導力育成プログラム」で，「小学校英語活動地域サポート事業」として文部科学省の認定を受けた。この認定は，先生のご尽力によるところが大きく，今回のご講演は，その実践内容とその後の発展に関するものである。

講演にあたって阿部先生は，長大なパワーポイントによる資料を用意して下さった。それだけで，これまでのご活躍がどれほどのものか容易に想像できるくらいのものである。先生はまず，「教員研修を考える」として，「誰に？」（対象），「何を？」（内容），「どのように？」（方法）および「一貫したテーマ」，すなわち「振り返る Reflective」と「学び合う Collaborative」をいうものを常に念頭に置いておられ，その４つのトピックに則してお話を続けられた。

まず，「誰に？」の部分であるが，一つは，（小学校）英語教員を目指す大学生であり，そのための研修カリキュラムとしての「児童英語指導員養成コース」を構築された。次に，公立小学校現職教員を対象として，「小学校英語活動地域サポート事業」および「授業研究サポートシステム」を立ち上げられた。「何を？」の具体的な部分では，大学生に対するコースについては，「第二言語習得論」，「音声学」，「教授法」，「子どもの遊び」，「実践的指導力」に関する素養を育てることを目指し，「どのように？」では，*Teaching English to Children in Asia* をテキストとして用い，「グループディスカッション」，「模擬授業」，「フィールドワーク」を養成コースに組み入れられた。「フィールドワーク」は必修科目であり，福岡市教育委員会の学生サポート制度を利用して，年間 50 名前後の学生をゲストティーチャーとして小学校現場に派遣するものである。これには，大学近隣の小学校５～８校が協力して，各学期で週１回以上，４～８週間の実践研修を行った。ここでも「学びあう」というコンセプトに基づいて，学生は，異学年／異学科の３人以上のチームを組んで授業を行い，指導法や教材は，チームで考案・作成する。「振り返る」については，その授業を DVD に録画し，授業研究に用いたり，学内ウェブサイトで報告した。また，学期末の「振り返る会」で「フィールドワーク」に関する情報や体験を共有した。このようにある学年の授業を担当したグループが，次にその学年を担当するための引き継ぎとして，これらの「振り返り」を活用したのである。

現職教員研修は，福岡市立小学校 147 校中の 86 校を対象として行い，延べ人数として，教員約 2,500 名が参加した。この研修の中身については，まず，全体研修を，先進的な実践を行っている研究指定校で行い，そこで得た知識・技術を，前述した，文部科学省「小学校英語活動地域サポート事業」の支援を得て，地域の小学校に「広めて」行き，また，小学校の先生たちと自主的に立ち上げた「授業研究サポートシステム」による個別研修を通して，研修効果をより「深めて」行くというものである。

「小学校英語活動地域サポート事業」が具体的にどのように行われたかというと，「全クラスの公開授業＋特別講演会」を全５回，また，「１クラスの公開授業＋公開校内研修会」を全 26 回開催し，さらに，福岡女学院大学において「夏期特別講座」（2006 年度３日間，2007 年度２日間）実施した。特別講演会は，久埜百合先生など著名な方々を招いて，「発達段階に応じた指導の工夫」などのテーマで開かれ，公開校内研修会は，「指導力養成講座」と「英語力養成講座」という二つの内容で行われた。「夏期特別講座」においては，その二つに加えて，「指導技術講習」（歌・フォニックス・ゲーム等）や「授業研究入門」などの講座も開設された。ただ，阿部先生は，この「小学校英語活動地域サポート事業」の課題として，「もっと振り返りを深める必要性」を感じられたようで，「一つひとつの授業がただ流れて行く感じになった」と反省もされておられた。

最後に，阿部先生は，「学びあう」と「振り返る」に加えて，後から気付いた重要な点として，「自ら学ぶ Autonomous」を挙げられた。学生や教員に対する研修の成否を分けるのは，ただ情報や技術を与えるだけではなく，最終的には，この「自ら学ぶ」態度を育成することであると結論づけられ

た。その言葉は，これほどのプロジェクトを成し遂げられた先生だからこそ，私たちの心に大きく響いた。

先生の膨大なご尽力によって，福岡女学院大学の学生や福岡市立小学校の先生方が，どれほど恩恵を受け，小学校英語教育のための素養を身につけることができたかを思うと，そのご努力にまことに頭が下がる思いである。今後も，小学校外国語活動を担当する教員やそれを目指す学生のための研修プログラムの改善と実践，そしてそれらに関するご報告をぜひとも賜りたいものである。

松岡博信（安田女子大学）

◇　◇　◇

パネルディスカッション
「様々な立場から見るこれからの小学校英語」

鶴田マリ
（広島 YMCA 外語学院名誉学院長）
築道和明（広島大学）
西谷恵美子
（広島県安芸郡府中町立府中東小学校）

今回の支部大会では従来になかった新しい試みとして、パネルディスカッションを導入し、異なる立場から今後の小学校英語のありかたについて議論を行うこととした。

まず鶴田先生は小学生の言語習得という観点からお話をされた。言語習得には、「聞く→話す→読む→書く」という一連の流れがあるとし、英語でもまずは音声に十分慣れさせることが大切だとの主張をされた。絵本を用いたストーリーテリングや紙芝居で子供達の意識を高めることの大切さ、また予想外の展開を伴う真のコミュニケーションや人前で発表することの意義についてご意見を述べられた。

西谷先生は公立小学校における英語活動の実践者の立場から議論をなさった。小学校での英語活動が必修化されるため、現場には誰がどのように指導すれば良いのかという戸惑いが広がっているという。英語ノートは現在改訂版が作られつつあるが、これに縛られることなく、うまく活用することでよりよい活動が運営できるのではないかとのご意見を述べられた。また具体的な指導については、1) 単なるオウム返しではない、通じる英語活動を、2) ねらいを把握して指導にあたる、3) 英語の音に対する興味、他言語・他文化の多様性を伝えることが大切な仕事だとのことだった。

築道先生は教員養成の観点からお話をされた。築道先生はこれまでご自身が様々な場所で研修の指導者となった経験を振り返り、そこで教育現場のニーズを感じることができたという。具体的には「英語力を伸ばす研修」「授業力を伸ばす研修」のうち後者の要望が高い点が指摘された。また、教員養成担当者は「英語教育」という観点からしかものを見ない傾向があるとし、「小学校の教育は何のためにあるのか？」という点を意識する必要があることを強調された。また英語力の指導については、焦点化することが大事であると同時に、小学校担任教員の特性を考慮（e.g. 算数、理科などを通じて児童をみている）することも重要だとのお話だった。

最後の質疑応答では、小学校英語を通じてどのような力を付けるのかという問いが発せられた。ここでは「コミュニケーション能力の素地」「他者に対する理解」が大切だとの意見が出され、ここで学んだことが他の領域でも生かされることが示唆された。また目標の設定に関しては、参加者から目標は必然的に抽象的なものになるし、具体的な実践の中で目標を形作っていくのかを考えることが大切だとの発言もあった。最後に司会の川口先生からは「相手を理解し、認めること」の大切さが指摘され、パネル・ディスカッションは終了した。

限られた時間の中で議論し尽くせない点もあったが、母語と異なることばに触れることの大切さは参加者にも伝わったのではないだろうか。今後私たちが実践にあたる場合も小学生ならではの良さを生かした工夫を続けるべきであろう。

平本哲嗣（安田女子大学）

◇　◇　◇

中国四国支部　2008 年度　活動報告

中国四国支部では 2008 年度、年２回の支部研究大会、11 回の児童英語指導法研究部

会を開催しました。以下、各活動の内容を報告します。

1) 支部研究大会

・春季支部研究大会
開催日：2008 年 5 月 25 日（日）
会場：ひろしま国際センター
大会テーマ：小学校英語教育の本格実施を見据えた研究と実践

本支部大会では講演、研究発表、実践報告など計４件の発表を得ることができた。

研究発表
「小学校英語活動における『児童の不安の強さ』と「求める教師支援」との関係」
松宮奈賀子（広島経済大学）
研究発表
「『夏休み小学校教員のための英語塾』における『発音クリニック』研修－広島市教育委員会との合同事業に向けた安田女子大学・短期大学英語教員のチャレンジー」
松岡博信（安田女子大学）
平本哲嗣（安田女子大学）

講演
「子どもの心を引きつけるストーリーテリングを使って－自然なインプット・アウトプットを促す指導法」
金山　敬
（京都外国語大学　大学院非常勤講師、ソフィア・イングリッシュハウス主催）

実践報告
「人のかかわりから年間指導計画を考える－実践的コミュニケーション力をつけるために－」
中井ひろみ（府中市立南小学校）
全体討議

・秋季支部研究大会
開催日：2008 年 11 月 9 日（日）
会場：ひろしま国際センター
大会テーマ：様々な立場から見るこれからの小学校英語

本支部大会では研究発表、実践報告、講演、など計３件の発表を得ることができ、最後はこれらの発表に基づくパネルディスカッションを開催した。

研究発表
「絵本読み聞かせ活動における児童の音韻表象と形態表象アクセスに関する研究：眼球運動測定を用いて」
三宅美鈴（広島国際大学）

実践報告
「小学校英語活動における他教科との連携～5 年生における実践から～」
永田澄枝（倉吉市特別非常勤講師）

講演
「小学校英語活動に必要な教員研修を考える　～現在の、そして将来の先生のために～」
阿部始子
（関西大学・福岡女学院大学非常勤講師）

パネルディスカッション
「様々な立場から見るこれからの小学校英語」
鶴田マリ
（広島 YMCA 外語学院名誉学院長）
築道和明（広島大学）
西谷恵美子
（広島県安芸郡府中町立府中東小学校）

2) 児童英語指導法研究部会

第１回「日本の童話を英語にして―小３に英語を読ませる―」
開催日：2008 年 4 月 5 日（土）
鶴田マリ(広島 YMCA 外語学院名誉学院長)

第２回「広島市の小学校英語活動と児童英語教材紹介」
開催日：2008 年 6 月 26 日（木）

講師：西尾亜紀子（Bear’s English House），
畑堀祥子

第３回「広島市の小学校英語活動と児童英語教材紹介」
開催日：2008 年 7 月 9 日（水）
講師：畑堀祥子

第４回「小学校校内研修—フォニックス指導をやってみて」
開催日：2008 年 7 月 27 日（日）
講師：石橋智子 (Lollipops)

第５回「教材研究～絵本の部～」
開催日：2008 年 9 月 20 日（土）
講師：西尾亜紀子 (Bear's English House)

第６回「海外での児童英語指導法講習会報告会」
開催日：2008 年 10 月 10 日（金）
講師：生和裕美

第７回「久埜百合先生を囲んで」
日程：2008 年 10 月 24 日（金）
開催日：広島市立留学生会館
講師：久埜百合
（なお、この回の内容については別紙報告をご覧下さい）

第８回「国際交流を通した書き言葉と話し言葉のコミュニケーション−１−」
開催日：12月22日（木）
講師：國本和恵（子供英語）

第９回「国際交流を通した書き言葉と話し言葉のコミュニケーション−２−」
開催日：2009年2月19日（木）
講師：大坂美由紀

第10回：「絵本発表会（子供英語）参観」
開催日：2009年３月９日（月）
場所：福寿館

第11回：「音声と文字の扱い」
開催日：2009年3月12日（木）
第１部「フォニックス概論」
講師：西尾亜紀子
第２部「小学生のためのスペルと音」
講師：國本和恵

◇　◇　◇

第 27 回支部研究大会のご案内

大会テーマ
「未定」

10:00　受付開始

午前の部
司会　平本哲嗣（安田女子大学）
10:20－10:30　開会の挨拶
國本和恵
（JASTEC 中国四国支部･支部長　子供英語）
10:30－11:10　研究発表
「絵本読み聞かせ活動における児童の音韻表象と形態表象アクセスに関する研究：眼球運動測定を用いて」
三宅美鈴
（広島国際大学）
11:10－11:50　実践報告
「小学校英語活動における他教科との連携～5 年生における実践から～」
永田澄枝
（倉吉市特別非常勤講師）

11:50－13:00　昼休み
午後の部
司会　松岡博信（安田女子大学）
13:00－14:30　講演
「小学校英語活動に必要な教員研修を考える　～現在の、そして将来の先生のために～」
阿部始子
（関西大学・福岡女学院大学非常勤講師）
14:30－14:50 休憩
15:50－16:20 パネルディスカッション
司会　川口康子（鳥取短期大学）
「様々な立場から見るこれからの小学校英語」
鶴田マリ
（広島 YMCA 外語学院名誉学院長）
築道和明
（広島大学）

西谷恵美子
（広島県安芸郡府中町立府中東小学校）

16:20－16:30 閉会の挨拶

五十嵐二郎
（広島大学名誉教授）

※ 研究大会参加費： 一般 1,000 円，学生 500 円（JASTEC 会員は無料，賛助会員は３名まで無料）

※ 研究大会の参加予約は必要ありません。当日，会場の受付までお越しください。

※ 中国四国支部では 2009 年 11 月に徳島市で開催を予定しております今年度第２回研究大会の発表者を募集しております。詳しくは以下の事務局にお問い合わせください。

JASTEC 中国四国支部事務局
731-0192 広島市安佐南区祇園 5-37-1
広島経済大学　　松宮奈賀子研究室内
TEL& FAX: 082-871-1585(直通)
E-mail: n.matsu1321@hue.ac.jp
Home Page: http://ace1.yasuda-u.ac.jp/~jastec/chushi

編集後記

児童英語とは直接の関係はないように見えますが、今年の３月に新しい『高等学校学習指導要領』が発表されました。その中で物議をかもした記述として、「英語に関する各科目については，その特質にかんがみ，生徒が英語に触れる機会を充実するとともに，授業を実際のコミュニケーションの場面とするため，授業は英語で行うことを基本とする。その際，生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。」というものがありました。従来より「英語の授業では英語を使って指導する」という意見はありましたが、ついに学習指導要領にこういう記述がなされるようになりました。

この記述に関しては、目下賛否両論あるというのが実態です（どちらかというと否定的、もしくは慎重な態度を示している方が多い印象を受けます）。与えられた物理的条件の中で、従来の指導内容を維持（もしくは強化）しつつ、All English で、ということになると、実際指導にあたられる先生方にはまた新たな課題が与えられたといえるでしょう。

ひるがえって小学校での外国語活動をはじめとする児童英語教育の世界ではどのような課題があるのでしょうか？ほとんどの子ども達が最初に英語にふれる窓口として、児童英語が存在するわけですが、児童英語における実践が真に「コミュニケーションの場」として機能しうるのか、また、そもそも「コミュニケーションとは何か」という問いに対して、真摯な考察が必要になってくると思います。

英語に触れるスタート段階において、豊かな言語経験を得た子ども達は、高等学校（または中学校）においても、心ある言葉の使用者になってくれるのではないでしょうか。言語政策は時代の流れに応じて、絶え間なく変化していきます。しかしながら、私たちは、その流れを常に監視しつつも、たくましく生き抜いていく必要があると思います。

(H)

JASTEC 中国四国支部 Newsletter No.19
2009 年 5 月 1 日発行 (編集　平本哲嗣)

（付記）

JASTEC 中国四国支部役員

（2009 年度 5 月現在）

＊ [　]内は全国本部役員名

顧問　五十嵐二郎
（広島大学名誉教授）

顧問　鶴田マリ
（広島 YMCA 外語学院名誉学院長）

支部長[理事]・広島ワークショップ担当
國本和恵
（子供英語）

支部事務局長[運営委員]　松宮奈賀子
（広島経済大学）

幹事[理事]・鳥取ワークショップ担当
川口康子
（鳥取短期大学）

幹事[理事]　築道和道
（広島大学）

幹事[理事]　金森強
（松山大学）

幹事[運営委員]　松岡博信
（安田女子大学）

幹事[運営委員] ・ニューズレター担当
平本哲嗣
（安田女子大学）

幹事[運営委員]　西谷恵美子
（府中町立府中東小学校）

幹事[運営委員]・徳島ワークショップ担当
吉山京子
（松茂町立松茂小学校）

研究員・会計担当　中根千春
（Fun Can 英語教室）

研究員・会計監査　恵良上枝
（公文式教室）

研究員　鉄森令子
（大日本ランゲージクラブ）

研究員　マーク・フェネリー
（四国大学）

研究員　大谷みどり
（島根大学特任教授）

研究員　名合智子
（中国短期大学）

研究員・会計監査　西尾亜紀子
（Bear's English House）

計 18 名